



道  
守

みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.14 夏号

特集 道守会員アンケート

“道守”の名称、もっと一般へ  
いっそうの連携と一体化を

道守の輪

道守九州会議 設立4年目  
思い新たに活動へまい進

交響の道を行く・新街道風景②

豊後街道 九州横断の夢、今も

400年を経て清正公道から風景街道へ

巻頭随想

人生の岐路

檀 太郎

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄り、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなどは整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。  
さあ、新しい道に一歩踏み出そう。



CONTENTS

- 01 巻頭随想  
「人生の岐路」檀 太郎
  - 02 特集 道守会員アンケート  
“道守”の名称、もっと一般へ  
いっそうの連携と一体化を
  - 04 特集 日本風景街道  
地域と行政がパートナーシップ、  
日本風景街道、国民的な運動に
  - 06 道守の輪  
道守九州会議 設立4年目  
思い新たに 活動へまい進
  - 08 わたしの好きな道  
知恵と工夫、助け合いが心地よい、坂道暮らし  
牧 圭子
  - 09 私たちの道守活動
  - 12 交響の道を行く・新街道風景②  
豊後街道 九州横断の夢、今も  
400年を経て清正公道から風景街道へ
  - 14 海外道事情【スイス】  
ガソリン車の乗り入れを禁止した  
アルプスの村 ツェルマット
  - 15 ご存知ですか？  
全国初「高速バスロケを活用した乗り継ぎ社会実験」
  - 16 道守たちのトピックス／人物伝
  - 17 道守九州会議会員募集中／お知らせ
- 表紙画：久富 正美  
1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭  
随想

# 檀 太郎

TARO  
DAN

# 人生の岐路



およそ50年間慣れ親しんだ家が、東京都補助132号線という計画にかかり、どうやら立ち退かねばならぬようだ。父の代には借地をしていたのだが、父と相次いで地主さんも他界された。地主さんの遺族から要請があり、銀行

融資を頼りに土地を買い取り家も建て替えた。30代半ばの僕にとっては、かなりの重荷であったことは事実。だが、公園にも近く、庭の緑も豊かである。樹齢100年は優に越えているだろう。松の木が10数本、山桜や太いいるは紅葉もあり、心安らぐ住まいである。当然、この地で余生を送る覚悟でいた。が、都市計画はややもすると非情である。こちらの思いは無視され、計画はどんどん進んでしまう。反対運動も視野に入れたが、年を重ねてからの抵抗は厳しい。緑を残し住民に優しい道路にしてくれるのなら、という条件の基に移住を決定した。どうせ移住するのならば、ガラリーと環境を変えてしまおう。思い切って、父が終の棲み家として晩年購入した、博多湾に浮ぶ能古の島の家に移り住もう。と、決断した。

能古は離島とは言え、博多の中心地から直線で6、7キロ。現在の練馬の家より、かなり繁華街には近い。島に渡るフェリーも10分前後。緑多き、楽園のような場所である。しかし、能古の家は、度重なる台風や博多湾西方沖地震の被害を受け、かなりのダメージを受けている。建て替え以外に術はないのだが、極力自然環境は壊したくない。家に入るアプローチの道も、絶対に舗装はしないで野芝を植えよう。一見、不自由そうでも、考えようでは、真の贅沢であると思う。

プロフィール

1943年東京都生まれ。作家の故・檀一雄氏の長男。CMプロデューサーとして数々の作品を制作、テレビ番組の企画・制作にも携わり、世界各国を歩く。食に関するエッセイ、講演など活動は多岐に渡る。著書に「好「食」一代男」など。



特集 道守会員アンケート



# “道守”の名称、もっと一般へ いっそうの連携と一体化を

## 道にかかわる人々の声、思い、さまざま

道守九州会議発足から3年。道守の輪は九州各地へ広がり、会員数は約3万800人(2007年5月末現在)に達しています。この度、道守九州会議と九州幹線道路協議会道守分科会では、会員を対象に「道守に関するアンケート調査」を実施しました(実施期間:2007年2月下旬~3月上旬)。アンケートは、道守九州会議加入の309団体(個人および一般企業を除く)に依頼。うち153団体から回答(回収率49.5%)をいただきました。アンケート結果の一部をご紹介します。



どのような道守活動をしていますか?

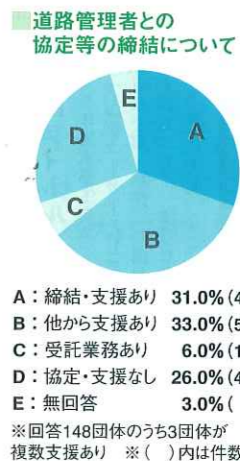


### 道守活動

「清掃・美化」がトップ  
活動内容を分類別に見ると「清掃・美化」を行っている団体が最も多かった。次いで「花・植木の育成」。その他の活動では、打ち水やイルミネーションなど「イベントによる地域の活性化」、挨拶や声かけなど「地域コミュニケーション復活の啓発活動」などが挙げられた。

活動支援に関する道路管理者との協定を締結していますか?

アンケート回答団体の約7割が支援あり  
「道路管理者と協定(VSP・ボランティア・サポート・プログラム)を締結し、支援を受けている」と回答した団体は約3割。「他から支援を受け



### 道守活動時の保険加入は全体の約3割強

活動支援を受けている団体のうち、道守活動時の事故などに対する傷害保険の扱いについて聞いたところ、「協定・支援に含まれている」が約5割、「含まれていない」が約4割だった。アンケート回答団体から見ると、傷害保険の支援を受けているのは全体の約3割強となる。一方で、活動団体が他のボランティア保険や傷害保険に加入しているケースもあるようだ。自治体等行政によっては、保険制度を設けていない場合や、制度があつて



も補償内容に差があることが伺えた。こうした中で、道守やボランティアの声が行行政へ届き、新しく市民活動保険制度が設けられた事例(福岡県直方市、7ページの記事参照)もある。

道守活動時の資材・器材はどうしていますか?

### 作業用具、花木の苗の支援が9割近く

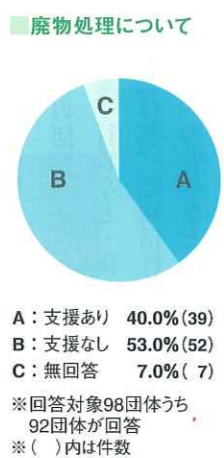
道路管理者等から何らかの支援を受けている道守団体の約8割が、資材・器材の支援を受けている。内容は「作業用具」が69団体、「花や植木の苗」が40団体で、全体の9割近くを占めていた。花や樹木への散水に必要な「水」については、沿道に給水栓を設置した事例もあった。



回収したゴミや草などの廃物処理はどうしていますか?

### 廃物処理の支援あり4割、支援なし5割

道守活動で回収したゴミや空き缶、草などの廃物処理の扱いについて、「支援を受けている」が4割。支援内容は「廃物運搬」が8割超で、最も多かった。支援がなく自前で処理をしているという回答は、5割だった。

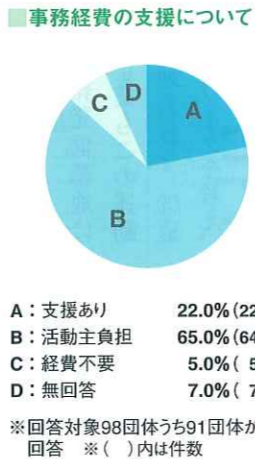


事務経費などの負担・支援はありますか?

### 支援ありは約2割、経費不要も

活動にともなう必要となる事務経費等の支援については「支援あり」が約2割、「活動主負担」が約7割。事務経費は発生しないと「経費不要」が1割未満であった。事務経費の支援については「現物支給」が13件、「現金支給」が4件。現

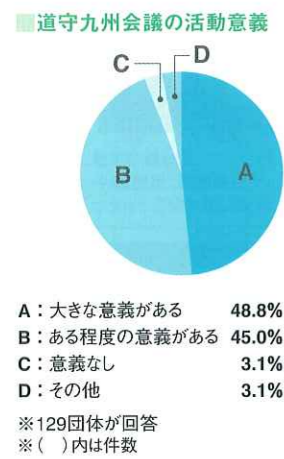
金支給は、お茶代程度である場合が多いようだ。



道守九州会議の活動で役に立っているものは何ですか?

### 道守九州会議の活動”意義がある”

役立っていると思う道守九州会議の活動については「機関誌『道守通信』発刊による情報活動」が約3割、次いで「各地での学習会や交流会」、「道関係行政者などとの意見交換」などがあつた。道守九州会議の活動については、回答のほとんどが「大きな意義がある」「ある程度の意義がある」だった。



- たくさんのご意見・ご提案、ありがとうございます。二部抜粋
- ▼読み物を書籍シリーズ化して刊行
  - ▼統一ユニフォームがほしい
  - ▼ドライバークラスのマナーアップ育成活動が必要
  - ▼道守週間・月間の設置
  - ▼メディア・報道での啓発
  - ▼年度毎にテーマを絞る
  - ▼公共広告掲載
  - ▼ボランティア意識の向上を
  - ▼ポイ捨て禁止キャンペーンを大々的に
  - ▼地域が育てる道の魅力を九州から全国へ
  - ▼身近なところで交流会を
  - ▼無理のない範囲で進め、継続を
  - ▼一斉清掃を行ってほしい

### 今後の道守のあり方について

アンケートで多く見られたのが、会員だけでなく一般への「道守」の名称の普及を望む声でした。また、道守会員や道路行政関係者など、「道守」に関わる人々のいっそうの連携と一体化を望む声も多数ありました。道守九州会議では、会員の皆様からのご意見をもとに、これからも道守活動を推進してまいります。



グランプリは「雨の球磨川」坂下裕幸さん（宮崎県）

第3回とるばフォトコンテスト（期間：2006年3月1日～2007年1月31日）には、249作品（駐車場数：延べ147箇所）の投稿がありました。1次審査は「行ってみたい！と思わせる魅力的な風景を撮影した作品」という観点から、20人の審査委員が投票形式で選考。最終審査は、東島治男審査委員長（社団法人日本広告写真家協会九州支部）、松尾芳彦副委員長（西日本写真協会）、道守九州会議事務局が各賞を選考しました。入賞作品を紹介します。

**グランプリ 雨の球磨川**  
 坂下 裕幸（宮崎県） 人吉城公園駐車場（熊本県）  
 カメラ歴：デジタルカメラ4年  
 受賞コメント：写真を見て、少しでも多くの方に足を運んでいただければ、幸いです。



審査員寸評：画面上部に紅葉が半分を占める大胆な構図と、あいにくの天気を逆に生かして赤い紅葉と背景を淡くコントラスト良く処理されています。作品全体に華やかな中にも秋雨の「侘び」があります。

 <b>優秀賞</b> 鹿の子大橋（こしき島） 大迫豊昭（鹿児島県） 鹿の子大橋駐車場（鹿児島県）	 <b>優秀賞</b> 夜明け 稲田義美（宮崎県） 道の駅「日向」（宮崎県）	 <b>優秀賞</b> 天草の真珠 高山伊勢吉（福岡県） 崎津天主堂（熊本県）
 <b>特別賞</b> 目かね橋と桜 牛嶋智足（福岡県） ホタルと石橋の里公園（福岡県）	 <b>特別賞</b> 由布岳の雪化粧 小野翼（佐賀県） 狭霧台【さざりだい】（大分県）	 <b>特別賞</b> 小春日和 郷田宏（福岡県） 舞鶴公園第一駐車場（福岡県）
 <b>特別賞</b> 別府湯煙朝焼け 岡本芳生（大分県） 別府湯けむり展望台（大分県）	 <b>特別賞</b> 鶴の里 小牟田文江（鹿児島県） 出水市ツル観察センター（鹿児島県）	 <b>特別賞</b> 悠久の丘 樋口一男（福岡県） 平尾台自然観察センター駐車場（福岡県）
 <b>特別賞</b> 九十九島の春1 入江弘（福岡県） 長串山公園駐車場（長崎県）	 <b>道の駅賞</b> 道の駅・たるみず 坂下裕幸（福岡県） 道の駅「たるみず」（鹿児島県）	 <b>道の駅賞</b> 日南海岸（道の駅なんごう） 海老原勇一（鹿児島県） 道の駅「なんごう」（宮崎県）

※上位入賞作品は、本年度の道守通信に随時掲載していく予定です。

九州とるば第4回フォトコンテスト開催中！

【<http://www.torupa.com/>】【<http://kyusyu.torupa.jp/>】  
 とるばフォトコンテストの詳しい情報を、九州とるばホームページに掲載しています。  
 第4回フォトコンテスト（期間：07年4月27日～08年1月31日）も開催中。  
 ぜひ、ご応募ください。



九州とるば

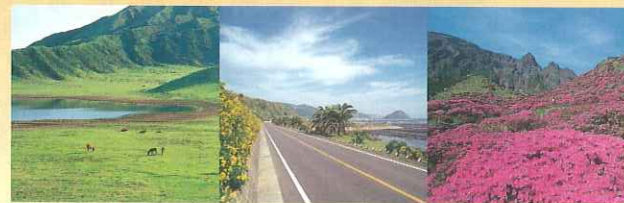
九州の魅力的な風景 駐車場から撮影  
 第3回とるばフォトコンテスト入賞作品紹介

特集 日本風景街道

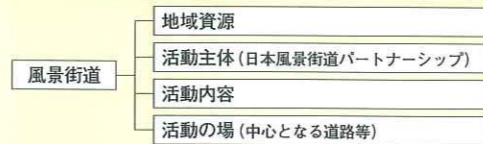
地域と行政がパートナーシップ  
 日本風景街道、国民的な運動に

地域活性・観光振興にも寄与

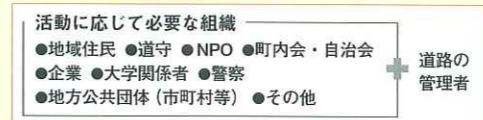
4月20日、日本風景街道戦略会議（委員長：奥田碩日本経団連名誉会長）は、約1年半の議論の成果をとりまとめた提言を国土交通大臣へ提出した。5月31日には、今後のあり方などを議論するキックオフシンポジウムを開催。「日本風景街道」は、国民的な運動として新たな出発を迎えた。



日本風景街道の構成要素



日本風景街道パートナーシップ



「日本風景街道の実現に向けて提言」奥田委員長から国土交通大臣へ  
 日本風景街道戦略会議は4月20日、設立から約1年半の議論の成果をまとめた提言「日本風景街道の実現に向けて」美しい国土景観の形成を目指した国民的な運動を「を奥田委員長から冬柴国土交通大臣に手渡した。提言には、道路を核とした美しい国土景観づくり、日本風景街道パートナーシップで、道守などの団体やNPO、住民、企業、行政など一体となった推進体制、地域活性化・観光振興への寄与などの方針が盛り込まれている。

日本風景街道 キックオフ・シンポジウムの中で開催 熱気の中で開催 全国から、NPO、自治体関係者が東京に集う  
 「日本風景街道への期待」をテーマにしたシンポジウム（国土交通省主催）が5月31日、東京都内で開かれた。日本風景街道戦略会議の提言を受け、あり方などを議論するもので、会場は満員、テレビ中継で議論を聞く人も多かった。  
 パネリストには、戦略会議委員長を務めた奥田碩日本経団連名誉会長や谷口博昭同省技監など6人がそれぞれ立場から意見や提言を行った。奥田氏は「観光立国の立場で、道を考える時代だ。移動することに豊かさを作り出したい」と述べ、①高速道路のSA、PAを風景街道の情報発信基地にすべきだ ②企業もこの運動にかかり地域貢献を ③道はもつとネットワークを考え、経済効果だけでなく、環境、人々のなごみ、楽しみの効果を増すように努力すべき



全国から関係者が集まった日本風景街道シンポ

の例や道路建設費の1%を景観形成に当てているフランスの試みを紹介しながら、風景街道効果への期待を語った。谷口技監は ①風景街道の道路標識の統一 ②無電柱化などの施策展開に意欲を示した。国土交通省はこのシンポを皮切りに、具体的な仕組みづくり、全国的な運動展開に取り組む。

また、石田東生筑波大学教授は、米国のシーニックバイウェイで「地域に年間2000万人が訪れ、2640億円の経済効果」をもたらしたブルーリッジパークウェイ

九州風景街道ニュース HPからも魅力発信！ 日南、ながさきルート  
 日本風景街道の九州モデルルートに選ばれた8ルートのうち「日南海岸きらめきライン」「ながさきサンセット・オーシャンロード」が、魅力や地域の活動を紹介する専用HPをオープンした。全国のモデルルートも相次いで開設または開設準備中。インターネットでの魅力発信も今後、盛んになりそうだ。

日南海岸きらめきライン <http://www.kirameki-line.com/>  
 ながさきサンセット・オーシャンロード <http://www.doboku.pref.nagasaki.jp/n-fukeikaidou/>  
 全国の応募ルートの概要・HPは日本風景街道HP <http://www.hido.or.jp/fukeikaidou/> でご覧いただけます。

# 道守九州会議 設立4年目 思い新たに活動へまい進

## ■道守九州会議

### 第1回運営会議開催

### 「道守2ndステージ」へ 「みちづくし」開催へ意欲

6月11日、道守九州会議の平成19年度第1回運営会議が福岡市内で開催され、世話人、行政関係者ら約60人が出席した。



道守活動へ思いを新たにする参加者

冒頭、樗木武代表世話人が「私たちは、道に関連した社会貢献をさまざまな想いで、それぞれの地域で頑張っている。その成果がこの3年間で、徐々に蓄積されてきていると思う」とあいさつ。4年目を迎えた平成19年度の活動方針について議論した。会議では、これからの取り組みを「道守2ndステージ」とし、①地域の主役である各県会議が「独自の活動展開」「独り立ち」を進めていく ②道守九州会議がネットワークを活かして九州全体を支援していく、などの役割分担について検討。白熱した議論が交わされたが、各県会議内でも意見交換したうえで、再度、運営会議で話し合うこととした。

道守九州会議交流会2007「みちづくしin福岡」については道守福岡会議が中心となり、早急に行方委員会を発足することを確認。また道守かごしま会議から、2008年の「みちづくし」を鹿児島に誘致する提案があった。

## ■道守大分会議

### 道守大分会議総会

### 道守の報告、続々と

3月27日、大分市内で3年目を迎えた道守大分会議の総会が開かれ、道守会員や行政関係者ら約40人が集まった。

はじめに桑野和泉代表世話人、西尾崇大分河川国道事務所長があいさつ。九州各県の活動内容、「みちづくしin長崎」の報告など、挨拶する桑野和泉代表世話人



挨拶する桑野和泉代表世話人

った。懇親会では、顔なじみ、初顔合わせなどで会話も弾み、「大分の道がきれいであって欲しい」という皆の想いを確認した。



会員活動を報告する参加者

### 道守会員から一言(一部抜粋)

▼オリジナルの赤帽子、黄色ジャンパーが目立つように活動中。よく声をかけられる(生石港町港友会) ▼2008年大分国体に向け、障害者の方が動きやすい道づくりをしたい(NPO法人自立支援センターおおいた) ▼デウスクラブのメンバーほとんどが70歳以上。安全に作業したい(顕徳町デウスクラブ) ▼中九州横断道路の見学会に参加。多くの仲間ができた(おの女性の会) ▼朝7時から国道清掃。社員一人一人が積極的に参加することで連帯感も生まれた(株式会社野村建設)

## ■道守ふくおか会議

### 今年「みちづくし」開催県 第1回運営会議開く

道守ふくおか会議の平成19年度第1回運営会議が6月15日、福岡市内で開かれた。約30人が参加した。主な議題は、開催県として運営に携わる道守九州会議交流会2007「みちづくしin福岡(仮)」について。「フクオカ自動車博覧会(仮称)」と連携することもあり、早急に世話人や行政を中心とした実行委員会のメンバー選定と立ち上げを行うことで合意した。また、3つのモデルルートを押す九州風景街道への取り組みについても、意見を交換した。



みちづくし開催に向けて話し合う参加者

### 道守やボランティアの力で 市民活動保険制度設置 福岡県直方市

「保険制度でボランティアが安全・安心に活動できるように」という活動者の声を受け、福岡県直方市は4月1日から「直方市市民活動保険制度」を施行した。同日、道守ふくおか会議の「(いつも清潔なみち)直方バイパス頓野やまももの会」が保険制度施行を記念し、道路清掃を実施。陳情書を受け施行に尽力した向野敏昭市長や市職員らもかけつけ、感謝と激励のメッセージを伝えた。福岡県筑豊地区で初となるボランティア活動の保険制度導入に、道守たちも笑顔を浮かべた。



道守会員と向野市長(前列中央)

### 「みちづくしin福岡(仮)」 12月8日(土)・9日(日)に開催

2007年の道守九州会議の交流会「みちづくしin福岡(仮)」を12月8日(土)・9日(日)の2日間、福岡市にて開催予定です。第1回目の熊本市から別府市(2回)、長崎市(3回)と続き、今回で4回目。12月に福岡市で予定されている「フクオカ自動車博覧会(仮称)」と連携し、「道」をテーマに多彩な催しを予定しています。詳しい内容は、次号の道守通信でお知らせします。

### 道守活動、風景街道をもっと知る 道守九州会議の本、発売中

道守九州会議から2冊の本が出版されました。道の歴史と道守活動についてまとめた「道守たちの道、路と風景街道」(樗木武・著)と日本風景街道の九州モデルルートと地域資源のスポットを紹介した「九州風景街道 みち道楽」(西日本新聞社協力)。いずれも道守九州会議事務局でお求めいただけます。



道守たちの道、路と風景街道 (税込800円)  
九州風景街道 みち道楽 (税込800円)

※郵送希望の場合は、別途送料が必要です

■お申し込み・お問い合わせ  
道守九州会議事務局 /  
(社)九州地方計画協会 みち交流推進部 岩井まで  
電話:092-473-1057

### 地域の道守だより 九州各地から

地域内の道守活動レポートを詳しく紹介した各地の「道守だより」の新刊が発行されています。「道守だより」の発行情報は、道守九州会議ホームページでご確認いただけます。ぜひご覧ください。

■道守長崎会議  
ボランティア佐世保通信 (vol.11.12.13)  
「小浜温泉57」だより (16.17.18号)  
■道守かごしま会議  
おおすすめ分科会誌 (12.13号)  
※6月30日現在

http://www.michimori.com/  
道守九州会議ホームページ



ヘルパーさんのおんぶで細い階段を昇降



坂道には眺望、日当たり、風通しの良さがある



お年寄りが坂道を登るのはとても大変

# わたしの好きな道

## 知恵と工夫、助け合いが心地よい、坂道暮らし

### 長崎市

長崎は、急傾斜面の住宅地が多く見られる全国的にもめずらしい街です。隣の家に行く横の道がないため、いったん下の車道まで降りて、隣の家へ縦に伸びる坂道を登り直さなければならない場所もあります。「畑のあぜ道が道になり、両側に家ができた」という成り立ちを聞いたときには、なるほど、と驚いたものです。

私は、高齢者のお宅を毎日訪問する、ケアマネジャー（介護支援専門員）の仕事をしています。事務所のある立神地区は狭い坂道と、多い所では200段ほどの階段道が続きます。登るたびに刻々と変化する眼下の風景。「家に来ると、大変かもね。汗をかいたやろ」。細い道を息切らし登っていくと、利用者の方が満面の笑顔で迎えてくれています。

腰痛や膝痛のあるお年寄りは、一人での坂道や階段の昇降が困難。病院などの外出には、ヘルパーさんたちのおんぶ、車椅子ごと抱えての昇降が必要です。夏の暑い日や道が凍る冬の昇降は、特に危険が伴うため、男性ヘルパーさんは活躍しています。

狭い坂道に家屋が密集しているため、火災も深刻な問題です。町内の「婦人防火クラブ」は坂道でバケツリレーの練習をして、初期消火に備えています。こうしたお付き合いが、斜面コミュニティを形成しています。お互いが助け合うことで、地域の住みやすさを作り出しています。

大浦地区には2003年に全国初の公道としての斜行エレベーター「グラーブスカイロード」ができました。徒歩しか交通手段のなかった地域の人々にとっても喜ばれています。モノレールや動く歩道などの安全で快適な「斜面交通機関」は、これからの坂道暮らしに欠かせないものになるでしょう。

人々の知恵と工夫、助け合いで築きあげた坂道の暮らし。上り下りは大変ですが、坂道でなければ得られない、眺望と日当たり、夏場の風通しの良さがあります。長崎へ来た15年前は私を驚かせた道でしたが、今は私の大好きな道です。暮らしを支える行政には、もっともっと知恵を絞ったハード面の支援を期待しています。



**プロフィール**  
**牧 圭子**  
 長崎市在住。道守長崎会議員。ケアマネジャー、薬剤師として地域の医療活動に関わる中で、道のバリアフリーの在り方について考えている。

# 私たちの道守活動

鹿児島  
道守かごしま会議

### 道からはじまる、新しいふるさとの魅力 地域住民参加の道づくり

「道」に携わる人々が元気を出し合う交流の場として設立された道守かごしま会議（田島直美代表世話人）。現在、会員は88団体、約4240人。道守座談会やウォーキングイベント、小学生との天文館みち歩きマップ制作、土の舗装体感プロジェクトなど多彩な活動を行っています。

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介いたします。

「篤姫」を  
キーワードに  
行政と道守が連携

3月10日、日本風景街道モデルルートに採択された「錦江湾あつまる」との取り組みのひ



雨の中、篤姫ゆかりの地を散策

とつとして、2008年NHK大河ドラマに決定した「篤姫」のゆかりの地を歩く、道歩きツアーを行いました。この企画は「篤姫」をきっかけに地域活性化をねらう県や市と、道守かごしま会議が一緒になり、さらなる連携を図ろうとしたものです。ゆかりの地周辺の小学校にも呼びかけ、家族連れなど約70人が歩きました。

ツアー終了後は、道歩き型観光による地域活性化、交流などについて活発に議論。このような企画を、継続的に実施していくことを決めました。参加者からは「いつもは車で通り過ぎる道。

### バラも街も美しく、 道守ジャンパーを 30着製作： おすすめ分科会

道守かごしま会議おすすめ分科会では2月4日、鹿屋市の沿道をバラで美しくしようと国道220号の鹿屋バイパス沿線「ばら通り220」でバラの花の剪定を、約120人で行いました。終了後は、バラ談義に花を咲かせました。



バラの花を刈り込む参加者

また、おすすめ分科会の2007年度の総会を5月16日に開催。今年度の取り組みなどを決め、道守スタッフジャンパーの製作報告、個人情報取り扱い、交流会などについて話しました。

## 鹿児島

### 宮ヶ浜自治公民館

### 大河ドラマ「篤姫」原動力に ウォーキングパンフを制作



来年放映予定のNHK大河ドラマ「篤姫」に合わせて、いろいろなイベントが開催されています。4月29日に行われたJR九州主催の「篤姫ウォーキング」もその一つ。でも、ゆかりの場所だけでは3kmほどしかなく、この際10kmコースにして指宿市発祥の地「宮ヶ浜」まで広げると、多くの史跡や生活文化に触れられるのではと提案しました。

結果、1000人を超す参加者があり大盛況。宮ヶ浜地区16カ所の史跡や、明治・大正時代から営まれている店舗の紹介パンフレット750部を妻と二人で作製し、参加者に配布しました。

観光パンフとは一味違ったもので、先祖からの逸話もあり、「おもしろい」、「住んでいる方々の生の話は印象深い」などの声も。後日、「南日本新聞」でも紹介していただき、県内各地からの要望で100部ほど配りました。近くの小学校では、これを教材に社会見学したそうです。



（上野秀一）

# 私たちの道守活動

## 如来田の環境を守る会

福岡



### 屋外広告を協働管理 景観保全で行政と連携



1981年設立、会員24人。宮若市如来田地区では、地区を貫く県道30号に、並木のように多くの屋外広告物が無断掲出されていました。そこで24年前、屋外広告物を含む工作物と建築物について規則を設け、住民と行政が一種の協働管理を開始。

掲出物の形状や掲出主への連絡方法も調べ、役所を通じて自主撤去を求めました。残された物の撤去には住民も参加。地区住民は毎日通るので、すぐ無断掲出物を発見します。無断広告物は効果を発揮しないうちに撤去となるので、次第に減少。景観に配慮した広告でも制限しているわけではありませんが、いまでは農村らしい穏やかな景観が保たれています。

見通しの確保と景観保全のため草刈りもしています。掲出物は公物・私物関係なく、景観構成要素であるという点で公共性があると考え、良い要素にしていくことに携わっています。  
(本多文子)



無断掲出された屋外広告

熊本



## 子ども道守隊 Dogつばさ

### みち祭り清掃に今年も参加 県内の道をピカピカに



僕たちは小坂小学校（上益城郡御船町）の仲良しチームで、3年生2人と5年生3人の男子5人です。おとしの8月、子ども道守隊ができたときにみんなで入り、掃除のお知らせがあると、はりきって参加しています。道を歩きながら、ゴミを拾っていくのは探検みたいで面白いし、道がきれいになるのもうれいしです。

5月のみち祭りでは、熊本市内の上通商店街と周辺小道の掃除を担当。初めての道だったので、町の様子を見ながら歩くのはわくわくしましたが、空き缶やたばこの吸い殻などが多くてびっくりしました。

これからもどんどん掃除に参加して、熊本の道をピカピカにできるように、自分たちが住んでいるそばの道にも、もっと興味をもつてきれいにしていきたいと思っています。  
(徳永輝)



## 東島電気工事株式会社

佐賀



### イチヨウ並木の清掃20年 ちよつとした気配りも実感



わたしたちは、会社（唐津市）に面した歩道、車道の清掃を20人で20年間ほぼ毎日行っています。イチヨウの街路樹で、落葉の時期は1日で大きなビニール袋がいっぱいになるほど。

今年7月末から8月にかけて高校総体が、大会関係者、高校生、ボランティア、地元の方々などの協力の下、県内各会場で開催されます。佐賀のすばらしさを知ってもらうため、競技会場はもちろんですが、みんなが使う道もきれいに迎えたいと考えています。大会終了後もきれいな道を保てれば、高校総体を開催する意義がより確かなものになるのではないのでしょうか。

また、近所の多くの方たちも自宅周辺の清掃をされています。通学路として通っている子どもたちにも、誰かのちょっとした気配りで、自分たちの利用する道がきれいに保たれていることを感じてもらえればと思います。  
(福岡直幹)



長崎



## 坂本明正会

### 俵坂峠でアジサイ植樹を展開 坂本郷を元気できれいな町に



わたしたちは東彼杵郡東彼杵町坂本郷の老人会でつくるボランティア団体です。会員39人。坂本郷は、隣が佐賀県嬉野町という県境の町。県境の俵坂峠より少し長崎県側に下った所にある駐車スペースに、昨年からアジサイを植えています。

きっかけは、会員の「みんなで何かしらのボランティアがしたい」「国道34号沿線に花でも植えたらどうか」との意見から。国土交通省に問い合わせ、ボランティアに関する協定を平成17年9月に結びました。

東彼杵町は古くからお茶の町であり、会員の大半がお茶農家。お茶作りの合間をぬっての作業は、手が行き届かないこともありすが、なるべくみんなで集まり、清掃や除草などにも取り組んでいます。駐車スペースへのゴミ投棄も、最近は少なくなっています。坂本郷を元気できれいな町にするため、活動を続けていきたいと思っています。  
(俵坂繁巳)



大分



## 株式会社野村建設

### 社員の「声」きっかけに 旧道清掃で地域貢献



平成17年8月、大分営業所の設立を機に「何か地域に貢献できることはないか？」と社員全員で協議。「別大国道（別府市→大分市）を車で走っていると旧道のゴミがすごいね」という言葉が活動をはじめのきっかけでした。

現在、定期活動として20人で2・5・8・11月の年4回、第3または4土曜日の朝7時から約1時間、国道10号の旧道（別府市田ノ浦→白木間）沿いでゴミ・空き缶拾いを実施しています。海水浴シーズンの8月は、ゴミの量が2tダンブいっぱいになるほど。ゴミがなければ捨てる人も減ってくるだろうとの思いで続けています。

活動も2年を経過し、道守大分会議を通じて同じような活動を実施されている団体の方と意見交換を重ねています。人々の共有財産である「道」を微力ながら守っていこうと考えています。  
(野村竜治)



宮崎



## 小倉屋昆布食品株式会社 九州工場

### ゲンジボタルとの共生目指し 環境活動の輪を拡大



宮崎県北川町で操業を開始して20年。操業当初に観たゲンジボタルの乱舞は、正に北川町の自然の豊かさの象徴でした。2003年にISO14001の認証取得後、地域環境との共生を図るため、国土交通省の「アダプトロードプログラム（道路管理の民間委託）」に基づき、国道10号沿いの弊社包装センター前歩道と九州工場前の国道326号の路肩清掃を、約40人で月1回行っています。また、本社のある枚方工場でも、アダプトロードの活動や植林活動に参加。環境活動はまだまだ小さいですが、まずは自分たちでできるところから始め、継続していくことが大切だと思っています。

現在は、温室効果ガスの削減を目指す「チームマイナス6%」へも参加し、環境活動の連携の輪を拡大。ゲンジボタルの乱舞が見られるように自然環境との共生を目指して、活動の輪をさらに広げていきます！  
(山崎あやの)





車庫駐車場

⑨ 世界最大のカルデラが広がる



九州の真ん中を一気に横断、昔もいまも九州人の見果てぬ夢だ。阿蘇から九重を直結する道を「やまなみハイウェイ」と名付け、「丸に十の字の高速道を」と、現代人は忙しげだが、400年前、志高く夢に挑んだ男がいた。

「公道」は広道・公共道

戦国大名・加藤清正。熊本城下から豊後・鶴崎まで32里(約125km)をほぼ一直線に結んだ。豊後街道、沿線住民はいまも清正公道と呼ぶ。

「日本風景街道」に九州横断ルートが名乗りを上げている。豊後街道とやまなみハイウェイを結ぶ。今回は

豊後街道・清正公道は広道、道幅が広い。例えば、熊本城から13里(約50km)の阿蘇外輪山の麓・坂梨宿。国道57号がわずかに逸れて通ったので旧街道と町並みは往時の姿をいまに残す。優に2車線あり、道幅は約4m。夕暮れが迫ると、家並みの前に高さ1.5mほどの木製常夜灯に灯が点る。静かで幻想的。家々には屋号が残り「油屋岩下」などと

### 徒歩で九州横断の達成感いまも

清正は、天草郡加増を辞退した代わりに豊後3郡を望み、鶴崎までを藩領にし、ここに街道を通じた。九州横断最短道を目指したのである。「豊後街道の整備によって中世までの道は廃れた」と熊本大名誉教授の工藤敬一さん。崇城大元教授の松本寿三郎さんは「江戸への最短路、鶴崎の重要性を見極めた先見性」と評価する。

街道は、起点・札の辻からすぐ熊本城内を通る。城郭や石垣が空から街道に迫る。城を出ると1里毎に里数木の榎を植えた。道幅は広く、難所に石畳を敷き、石橋を架けた。道普請には築城同様、領民の労役に賃金を払った。豊後街道は、中央直結を見据えた戦略道路であり、同時にきめ細かな領内政策、つまり公共工事であった。加藤の治世は2代わずか40年だが、沿道住民は清正公道に親



●杉並の将来を考える高木会長

城だが、木材の調達には難儀した。清正は次の改築に備え普請中の豊後街道に杉を植えさせた、という。街道杉は菊陽町のJR豊肥線三里木駅付近に残っている。旧街道両側土手の杉並木は大津町まで約13km断続的に続く。両側土手の間は60〜80m、街道部分も幅30〜40mあり、いまは豊肥線と県道が並行して走る。その数、約900本。現在は地元の農業者・高木広次さんの手で細々と植樹が続く。杉は老木になると台風などで倒れる、必ず北側に。国道(現県道)を妨げる杉は当時建設省が対応したが、田に倒れた杉は放置された。高木さんはかつては九州地方建設局長に直談判するほどの「伐採派」だった。いまでは「必要なら切る、その分を植えればいい」が持論で菊陽町杉並木保存会にも入り、いつの間にか会長に。自宅の庭で苗木を育てながら専ら植え続ける。



●幻想的な常夜灯



●熊本城入口の清正像

掲げている。「各戸それぞれの製作です」と「さかなし宿場會」事務局長の「亀屋」志賀聡雄さん。会長の「東虎屋」赤星永幸さんの自宅前には、復元した水車や案内板も。坂梨宿と外輪山山頂を結ぶ滝室坂は街道一の難所で、標高差は約250m。130年前、坂は西南戦争の激戦地。歴史を伝える常夜灯や水車、案内板だが、まだ観光客はほぼ皆無、みやげ屋も少ない。

# 豊後街道 九州横断の夢、今も 公道から風景街道へ

## 交響の道を行く 新街道風景②

道の清掃や植栽、歴史や文化の継承が醸し出す、美しい道の風景。さまざまな地域資源が響き合う新しい街道風景を紹介します。

「九重にトキを」合言葉に トキが住める環境を回復して、九重の大自然に羽ばたかせようとして2003年に設立。3年前からは、子どもたちも理事の高橋裕一郎さんが「トキ子ども大使」として、佐渡トキ保護センターに見学に行っています。さらに、子どもたちと一緒に地域の歴史や自然についても学習。環境について考えることで、100年先も続くような運動につながることを期待しています。また、道路沿いの看板整理にも取り組み始めました。九重の魅力ある自然と、トキが見られるような景観づくりをしていきます。

道に住まう人々。 NPO法人九重トキゆめプロジェクト21 環境回復で景観づくり 「九重にトキを」合言葉に トキが住める環境を回復して、九重の大自然に羽ばたかせようとして2003年に設立。3年前からは、子どもたちも理事の高橋裕一郎さんが「トキ子ども大使」として、佐渡トキ保護センターに見学に行っています。さらに、子どもたちと一緒に地域の歴史や自然についても学習。環境について考えることで、100年先も続くような運動につながることを期待しています。また、道路沿いの看板整理にも取り組み始めました。九重の魅力ある自然と、トキが見られるような景観づくりをしていきます。



●高橋裕一郎さん

旧街道を列車と車が走る杉並木 豊後街道の起点・熊本城は築城400年の名

戦前まで宿を続けた「坂名屋」を一人守る勝夏子さんはいつも、玄関を季節の花と古布で装う。伊能忠敬らが泊まった別の家は、ブロッケン塀を木塀に改装中だ。「地元心が通じ合いました」と赤星会長。月例会の古文書勉強会は、藤井家(屋号不明)で歴史書き継がれた日記の解説。例えば西南戦争「戦闘の模様から止宿した警視隊姓名などが記されている。おとし、会は「くまもと県民文化賞」を受賞した。400年を経て道はなお人の心をつなぐ。

旧街道を増えている」という。道の原風景、通る喜びや文化、歴史を味わう試みー日本風景街道。そのモデルスポットが連続と続く道、それが清正公道・豊後街道だ。(滝平道郎)



●豊後街道を歩く子どもたち

子どもたちが豊後街道を徒歩で横断する企画が今年で30回目を迎える。主催するNPO法人「自然を愛する会」の阿南誠志代表は「横断の達成感当初から変わらないが、年々、沿道の人々や団体の支援で藪や草が除かれ、歩ける旧街道が増えている」という。



●阿南代表

しみ続けた。子どもたちが豊後街道を徒歩で横断する企画が今年で30回目を迎える。主催するNPO法人「自然を愛する会」の阿南誠志代表は「横断の達成感当初から変わらないが、年々、沿道の人々や団体の支援で藪や草が除かれ、歩ける旧街道が増えている」という。

自力の町並み整備に文化賞 戦前まで宿を続けた「坂名屋」を一人守る勝夏子さんはいつも、玄関を季節の花と古布で装う。伊能忠敬らが泊まった別の家は、ブロッケン塀を木塀に改装中だ。「地元心が通じ合いました」と赤星会長。月例会の古文書勉強会は、藤井家(屋号不明)で歴史書き継がれた日記の解説。例えば西南戦争「戦闘の模様から止宿した警視隊姓名などが記されている。おとし、会は「くまもと県民文化賞」を受賞した。400年を経て道はなお人の心をつなぐ。



●藤井家に残る日記の一部

### 阿蘇くじゅう・やまなみ シーニックバイウェイ

熊本から阿蘇、九重、別府を結ぶ、九州横断道路「やまなみハイウェイ」や国道57号沿いを訪ねた。



●駐車場と撮影スポットがセットになったフォトスポット&パーキング(とるば)のマークです。



⑧ にぎわう九重「夢」大吊橋



⑦ 人気の黒川温泉



⑥ 箱石峠にそびえる箱石



⑤ 「火の国」のシンボル・阿蘇山



④ 阿蘇のミヤマキリシマ



③ 外輪山の入口・二重峠



② 豊肥線と県道が並行する杉並



① 築城400年の熊本城



# 九州の高速バスがもっと便利に！ 全国初「高速バスロケ※」を活用した 乗り継ぎ社会実験」



高速バスの到着時間の遅れや座席の空席状況等の情報を提供する高速バスロケを活用した、全国で初めての乗り継ぎ社会実験が、九州縦貫自動車道高速基山パーキングエリア及び高速基山バス停で7月1日からスタートします。

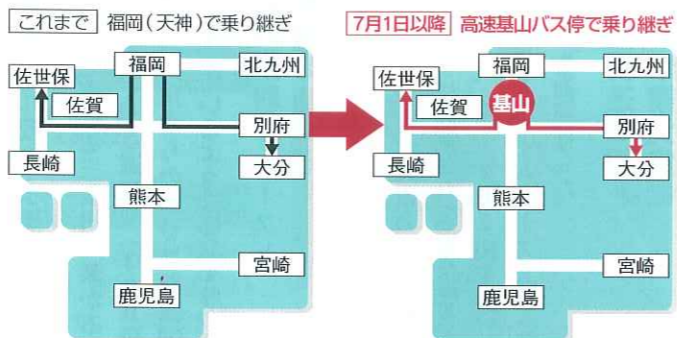
※高速バスロケーションシステム…高速バスの運行状況やバス停への接近情報などを表示・提供することにより、バス利用の利便性の向上を図るシステム

## 高速基山バス停での 停車便数478.5往復へ大幅増便 乗り継ぎ割引料金も実施

今回の社会実験では、九州を縦断する「九州縦貫自動車道」と横断する「九州横断自動車道」が交差する鳥栖ジャンクションに最も近い『高速基山バス停』(佐賀県基山町)を乗り継ぎ拠点化し、九州の地域間移動の利便性向上、観光をはじめとする地域活性化を図るものです。7月1日から『基山バス停』での1日あたりの停車便数を、現在の238.5往復から478.5往復へと大幅に増便します。また、各バス会社による乗り継ぎ割引料金も導入されます。

### ■高速基山バス停での乗り継ぎによる効果予測

佐世保～大分の事例



- ① 直通路線がない路線に関しての路線新設効果が期待される
- ② 便数が少ない路線に関して増便効果が期待される
- ③ 福岡ではなく基山で乗り継ぎすることにより、旅行時間の短縮効果が期待される

### ■高速基山バス停と表示板配置図



## 運行情報表示板、 案内看板でスムーズな 乗り継ぎを支援

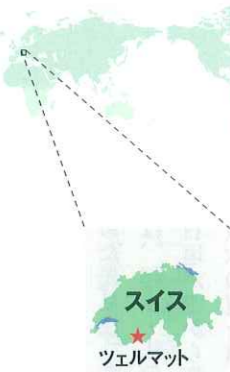
社会実験の対象となる基山バス停やパーキングエリア内には、新たに改良した高速バス運行情報表示板を4基設置します。利用者に高速バスの現在位置や到着時間の遅れ、空席状況等の運行情報を提供します。また、乗り換えバス停や休憩所、コンビニ、トイレなどへ利用者が円滑に移動できるようにするための案内看板なども設置します。便利になります九州の高速バスをぜひご利用ください。

問い合わせ先は 高速バスロケを活用した乗り継ぎ社会実験検討委員会 事務局  
(代表)九州地方整備局 道路部 道路計画第一課 浅井博海 TEL.092-471-6331 (代表) 092-476-3529(直通)

### ●道路についてのご意見・ご相談を受け付けています

九州地方整備局「道の相談室」  
0120-106-497 FAX 092-476-3514 [24時間 毎日受付]  
E-mail m-soudan@qsr.mlit.go.jp HP http://www.qsr.mlit.go.jp

# 海外道事情



集落内の歩行者優先道路。沿道にはレストラン・土産店・ホテルが軒を連ねている。



集落から眺望するマッターホルン(標高4477m)。



駅前待合する電気タクシーと観光馬車。

スイス連邦(通称スイス):永世中立国として有名なヨーロッパの連邦制共和国。首都はベルン。人口は745万人。国内に多くの国際機関本部が設置されている。

ツェルマット村:ヴァレー州のマッターホルン山麓にある町。スイス屈指の山岳リゾートで、アルプス観光の中心地のひとつ。絶景地にのびるケーブルカーや登山鉄道が多数ある。



## ガソリン車の乗り入れを禁止した アルプスの山村 ツェルマット

スイスには「スイス・カーフリー観光地共同体」(GAST)に加盟している村が9箇所あり、そこではアルプスの自然保護と持続可能な観光のために、ガソリン車の乗り入れを禁止している。これらの村を訪れる場合は、村の入口に整備された駐車場に家用車や観光バスをとめ、登山鉄道やケーブルカーに乗り換えて村に入ることになる。村内の主要な交通手段は、電気自動車(小型バス、タクシー、ホテルの送迎車)、馬車(ホテル客の送迎、村内遊覧)、自転車である。

スイスアルプス最大の山岳観光地ツェルマット村(2005年…人口5600人、延べ宿泊客数180万人)では、第二次世界大戦後の1947年にガソリン車の村内乗り入れを禁止し、電気自動車と馬車による交通の条例を施行した。また、ゴミ処理場や上下水道の整備、雪崩・洪水の自然災害対策、村独自の建築基準法を制定して集落景観を維持するなど、環境に配慮した観光地づくりが早くから行われてきた。観光客は隣村のテシユにある広大な駐車場(2004年…屋外3000台、屋内1400台)に駐車し、登山電車に乗り換えて所要時間9分でツェルマット駅に到着する。

ツェルマット村の交通条例は村内全域の公道に適用し、道路は原則として歩行者優先である。特別に許可されたガソリン・軽油車は、農業用運搬車、清掃車・救急車・霊柩車・除雪車・パトカー・軍用車などの公共車両、シヨベルカー・ブルドーザーなどの建築用機材や廃棄物輸送車である。また、電気自動車の利用は、タクシー業者と宿泊業者に限られる。しかも宿泊業者の許可条件は、ベッド数31台以上、年間宿泊者数4000人以上の宿泊施設であること、宿泊・飲食業経営許可証と駐車場所有証明を提示することとされている。電気自動車の外観は箱型であり、ガソリン車と同様な型や斬新な仕様は禁止し、ハイブリッド車も許可されない。なお、車両の最高速度は時速20kmに規制されている。

このような交通規制に対する住民と観光客の反応は、両者とも極めて好意的である。清潔で美しい景観、静寂で安全な生活環境が、持続可能な観光地を形成している。



長崎国際大学 人間社会学部 教授 池永正人  
博士(学術) [千葉大学大学院自然科学研究科]。専門は観光地理学。九州風景街道推進会議委員。

## 道守九州会議 会員募集中!

道守九州会議では、会員の募集を行っています。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせ・お申し込みください。

※賛助会員(会費あり)の募集も行っていきます。詳しくは下記事務局へお問い合わせください。

### ●入会申し込み・お問い合わせ

「道守九州会議」事務局  
(社)九州地方計画協会内  
〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533  
ホームページもご覧ください。申し込みも可能です  
道守HP <http://www.michimori.com>  
e-mail [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

### 道守通信 編集後記

3月の道守アンケート、活動環境など種々の問題意識は持ちつつも九州各地で黙々と汗を流される多くの道守の存在と、社会にできることを地道に…の「道守の心」に改めて感動。地域地域でこのような道守が行政を含め交流連携し、元気づけ励ましあいつつ道守活動の輪を広げ、ひいては地域の心や力をも育んでいる姿に道守会議の意義の重さを感じます。本年度も地域に根ざした活動の広がりへ各県会議等が楽しく元気に活動されますように!

(編集委員・森将彦/道守九州会議事務局)

## あなたも九州の道を考え、守ってみませんか?

### 道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。



気長に気楽に「拾い続ける」  
虹の松原を守る会(佐賀県唐津市)

### 広げよう道守の輪

九州各地の多くの方々がお道を舞台に活動を繰り広げています。地道でひたむきな活動ですが、地域の仲間、学校の友達、会社の同僚、市民団体、個人の活動などが、地域に共感と感動を与えています。



商店街が「道の里親」に  
宇土市本町1丁目区(熊本県宇土市)

### 道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など



広がる花の道、人の輪  
よしいコスモス街道実行委員会(福岡県うきは市)

## 道守九州会議からのお知らせ

### 道守九州会議交流会2007 「みちづくしin福岡(仮)」開催

12月8日(土)・9日(日)の2日間、道守九州会議交流会2007「みちづくしin福岡(仮)」の開催を予定しています。近日中に実行委員会でご案内を進め、道守九州会議ホームページ、道守通信等で詳細を発表していきます。

九州とるば  
第4回フォトコンテスト開催中  
魅力的な風景をご投稿ください  
「九州とるば」では、第4回フォトコンテストを開催しています。



● <http://www.torupa.com>  
● <http://kyusyu.torupa.jp/>

対象は2008年1月31日までに投稿された全ての作品となります。ふるってご応募ください。詳しい投稿方法は「九州とるば」ホームページをご覧ください。

## 道守たちのトピックス

### 高校総体中に道守活動 「ちかっと」ボランティア

佐賀市大和支所全国高校総体推進室内にある市民組織「ちかっとボランティア」は、総体期間中(7月28日~8月20日)に清掃活動や道案内などをボランティアで行う予定。「ちかっと」は佐賀弁で「少し」の意味。

### 川沿い遊歩道で植栽、清掃

太宰府市の大佐野川で5月12日、市民500人余りが参加して、川の清掃とコスモスの種まきを行った。市民グループが、地域の川を憩いの場にしようとして、1998年から主催。昨年からは川沿いの遊歩道などに、春にコスモス、秋に菜の花の種をまいている。

### 大吊橋中心に町職員ら清掃

行楽客に美しいふるさとを楽しんでもらおうと、九重町職員らが4月14日、町内の道路を清掃した。約130人が参加。「九重」夢「大吊橋」へ通じる道路を重点的に清掃し、軽トラック8台分のゴミを回収した。

### 4年越しでレモンロード完成

北九州市八幡東区の枝光南地区住民が、市道・上本町通り(760m)にレモンの苗木を植え、育てる活動をしている。月1回の枝の手入れや街路の清掃を通し、多世代交流や環境教育を兼ねた取り組み。2月24日の37本で植樹を終え、4年越しで計116本の「レモンロード」が完成した。

### 彦岐商、島全域で清掃奉仕

彦岐商業高校(長崎県彦岐市)の1、2年生210人と教職員らが3月20日、「第1回観光地クリーン作戦」と銘打ち、彦岐島全域で清掃奉仕をした。5つのコースを設け、道路沿いに捨てられている空き缶やタバコの吸い殻などを拾い集めた。

### サイクリングロードが開通

くま川鉄道湯前駅(熊本県湯前町)と同人吉駅(入吉市)を結ぶ「球磨川サイクリングロード」(県道湯前人吉自転車道線)が全線開通した。5月20日にはサイクリング大会が開かれ、約100人が「走り初め」をした。

### 遊歩道完成で水面歩き体感

日田市を流れる三隈川に架かる三隈大橋の下をくぐる遊歩道(300m)が完成した。川からの高さは約30cmで、水面を歩いているような感覚を味わえる。

### 虹の階段でレースと 植樹を初開催

唐津市の市民団体「虹の郷実行委員会」が3月18日、同市の鏡山(標高283.3m)に設置されている遊歩道「虹の階段」で、全1267段を駆け上がる速さを競うタイムレース大会と植樹ウォークを初開催した。

### 豊前街道周辺が 都市景観大賞に

熊本県山鹿市中心部の豊前街道周辺

が、2007年度都市景観大賞の最高賞「美しいまちなみ大賞(国土交通大臣賞)」に決まった。県土木部によると、同賞受賞は県内では初。受賞対象地区は、豊前街道約1.3km沿いの約6.5ha。

### 「さくら通り」を 小・中学生が手入れ

北九州市八幡東区祇園の通称「さくら通り」(全長約500m)で2月27日、地元の小・中学生や住民ら約200人が、道路の中央分離帯に植えられたソ

## 道守 人物伝

### 長崎街道の発掘、12年目



福岡県北九州市戸畑区  
柿本和夫さん(66歳)

長崎街道小倉城下町の会会長を務める。「まちづくりのため、街道の歴史と文化を掘り起こそう」との呼びかけに賛同したのが11年前」と振り返る。長崎街道の拠点である小倉が、昔と大きく変わったという思いがあった。

「観光という言葉は「地域の魅力を見せる」のが語源と考えています。魅力をしつかり磨いていくことが大事です」と語る。

これまで、常盤橋に通じる長崎街道のほか、唐津街道や中津街道、秋月街道、門司往還を歩き、街道沿いの遺跡や伝承を訪ねた。また、周辺住民と協力して行なう常盤橋清掃も今年で5回目。

最近では、「小倉のおもしろ歴史文化塾」開催で忙しい毎日。「豊前小倉の歴史・文化的なものにいろんな角度からアプローチすることが目的です」

まちづくりについて「歴史的な地域が持っている魅力を見直していきたい。まだ知られていないすばらしいものがあります」と意欲は尽きない。



 **第3回フォトコンテスト グランプリ作品**  
**「雨の球磨川」 坂下裕幸氏 (宮崎県)**

<フォトスポット> 人吉城公園駐車場 (熊本県人吉市) から北へ 200m

小雨に煙る球磨川を背景に、紅葉の赤い色が引き立っていました。



広報誌「道守通信」春号  
平成19年6月30日発行

■発行 「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail アドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

定価 300円 (消費税を含む)